真如苑：現代の仏教

トニー・ギアンナコリアス

真如苑外務局

真如苑は、伊藤真乗が第二次大戦後に、一般人が仏門に入らずとも仏陀の教えを学び日々の生活においてそれを実践し悟りに到達する道を開くべく、真言宗より独立して起こした宗派である。本稿は、筆者が真如苑に出会い信仰するに至るまでの経緯と創始者が新しい宗派を起こすに至った背景、その基となる教典「大般涅槃経」とその基本的な教えについて述べ、更に真如苑における「接心修行」と呼ばれる瞑想の方法を紹介している。

高楠順次郎：女子教育の先覚者

ジェーン・ゴールドストーン

高楠順次郎（1866～1945）は、一流の仏教学者でした。大正新脩大蔵経（パーリ語経典）という100巻に及ぶ仏教論文の膨大な彼の業績は、仏教学の歴史上、彼の地位を保証する以上のものでした。しかしながら、近代日本における女子教育の初期の主唱者としての役割はあまり知られていません。高楠の女子教育についての言質は、オックスフォードで教育を受けた高名なサンスクリット研究の教授であり、東京大学の学長としてのイメージとは一致しないものと一部の人には見られていたのかもしれません。1924年、彼は女子のための仏教大学を創設し、死ぬまで婦女子の教育機会拡大のために働き続けました。この論文は、女子教育についての彼の考えが形成された状況と、彼が生きた時代の必要性に学者として教育者として果たした彼の精神的対応を調べるものです。